

11月1日(金) 9:30-11:55

司会：松下 晋司(株産業タイムズ社)

◆特別講演

「市況悪化と次の成長フェーズの双方に直面する半導体・装置・電子部品業界」



株式会社産業タイムズ社  
大阪支局 支局長  
電子デバイス産業新聞 副編集長  
中村 剛

[講演要旨]

昨年来の半導体市場の低調は回復に向かいつつある。その牽引役となっているのが一大ブームともいえる生成AIである。減速が懸念されるEVも中長期的には成長が依然として見込まれており、SiCパワーデバイスなどが拡大を続けると予想される。北海道のRapidus、熊本のJASM(TSMC)など大型投資への期待も強い。市場の概況と今後について、最新の取材をもとにお伝えする。

[講演者プロフィール]

2008年10月、株式会社産業タイムズ社入社。半導体産業新聞(当時)編集部記者として、関西および東海、中国四国の半導体デバイス、電子部品、製造装置、電子材料、電池、新エネルギー分野の取材に幅広く従事。15年に電子デバイス産業新聞としてリニューアルした後は取材対象を自動車、医療、ロボットなどのアプリケーション分野にも広げる。21年7月、同紙副編集長に就任。23年1月より産業タイムズ社大阪支局長を兼務。

◆特別講演

「2025年以降の電子機器・半導体市況 ～新たな半導体時代の始まり～(仮題)」



インフォマインテリジェンス合同会社  
C&D コンサルティング  
南川 明

## [講演要旨]

### [講演者プロフィール]

1958年12月6日生

インフォマインテリジェンス合同会社 シニアコンサルティングディレクター

2019年8月 英 Informa へ統合され OMDIA ブランドで活動

2016年7月 IHSとMarkit 統合で IHS Markit に社名変更

2012年12月 IHS グローバル株式会社に社名変更

2010年11月 米 IHS の傘下に入り、IHS グローバル株式会社となる

2006年12月 米アイサプライ社と合併

2004年7月 株式会社データガレージ設立

2003/4-2004/2 クレディーリヨネ証券会社 調査部

テクノロジーヘッド&シニア・アナリスト

2000/6-2003/4 WestLB 証券会社 調査部 ディレクター &シニア・アナリスト

1996/1-2000/5 IDC Japan 株式会社 ディレクター

1990/5-1995/12 ガートナー ジャパン株式会社 データクエスト 半導体産業分析部

シニアアナリスト

1982/4-1990/5 モトローラ株式会社/HongKong Motorola Marketing specialist

1982/3 武蔵工業大学 電気工学科卒業 自動制御専攻

JEITA では 20 年間に渡り、世界の電子機器と半導体中長期展望委員会の中心アナリストとして従事する。定期的に台湾主催の半導体シンポジウムで講演を行うなどアジアでの調査・コンサルティングを強化してきた。特許庁の自動車用特許の技術審査委員、半導体関連特許審査委員。NEDO の「FeRAM 製造技術の開発」研究評価委員。

講演活動 & 執筆活動

JEITA、電子デバイス産業新聞、SEMI Japan、NEDIA、SEAJ などのセミナーで定期的に講師として講演を行っている。その他、メディアでも記事の執筆や TV 出演などの広報活動も精力的に行う。

### ◆特別講演

「フラットパネルディスプレイ・CMOS イメージセンサ業界・スマホなど完成品業界

見通し：25年、AI機能がスマホやPC買換えを牽引する？

技術変化や今後の注目点は何か？」



みずほ証券株式会社

エクイティ調査部

グローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ

シニアアナリスト

中根 康夫

[講演要旨]

緩やかな回復局面にはいった PC やスマホ市場。25 年は AI 機能が牽引し需要拡大が続くのか？ AI 機能が牽引し需要拡大が続くのか？ディスプレイや CMOS センサなどから見た技術変化は何か？ $\mu$ LED や  $\mu$ OLED など新技術は花開くのか？ディスプレイ+CMOS センサ+完成品の業界を、地域、技術、パネルメーカー、バリューチェーン、完成品ブランドなど様々な軸で業界全体の分析、今後の予想を行う。

[講演者プロフィール]

1991 年 4 月、大和総研入社。未上場企業・ベンチャー企業のアナリスト業務に従事。

1995 年より、台湾にて、台湾・中国のエレクトロニクス業界を担当。

2001 年よりドイツ証券にて民生エレクトロニクス・FPD・アジアのエレクトロニクス業界を担当。

2015 年 8 月よりみずほ証券にてグローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ兼シニア・アナリストとなり、現在に至る。

---